

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「みんなちがって、みんないい」

ある小学校で、特別支援学級（知的）に在籍する同級生のAさんの特性を知るとともに、共に楽しく生活するためにできる工夫を考えることをねらい、障害理解授業「みんなちがって、みんないい」を実施しました。

1 授業内容の流れ

(1) はじめに：昨年度、学習した「私と小鳥と鈴と」の詩を紹介する

みんなが違う長所や役割をもっていることは、素晴らしいことを確認する。

(2) あなたはどっち？：①～④の質問に答える

①ペット、②季節、③果物、④人の表情に関する選択肢を用意し、好きな物や感じた方に挙手をして、考え方や感じ方に違いがあることに気付く。

(3) 特別支援学級の紹介：特別支援学級の教育課程の特徴とAさんの特性を紹介する

栽培活動や買い物学習等の実体験を取り入れて「生きる力」を身に付けていることやAさんは発達がゆっくりタイプであることを知る。

(4) こんなときどうする？：3グループに分かれて、①～③のテーマについて話し合う

①たくさんのお話を注意されるとパニックになるAさんへの伝え方

②「こうして」とお願いしても、また同じことをやってしまうAさんへの接し方

③Aさんが廊下や階段でぶつかってきたときの言葉の掛け方

工夫できる点を付せん紙に書いて、一番ナイスな方法を発表した。①何に困っているかAさんに聞いてから分かりやすく伝える。②怒らないで、次からこうしようねと優しく伝える。③Aさん大丈夫だよ、今のことは考えずにこれから気を付けてねと言う。

グループごとのナイスな工夫を共有して、すぐ実践することを確認した。

(5) まとめ：令和4年度の赤ちゃんの出生数と死亡数、「私と小鳥と鈴と」の詩を紹介する

出会いは奇跡であり、一人一人がかけがいのない存在であることを伝えた。

2 授業で紹介したAさんのお母さんの手紙

もうすぐ5年生ですね。学習発表会では、とても立派な発表でしたね。みんなの成長におどろきました。Aはみんなより成長がゆっくりなので、いろいろなことが多いかもしれないけど、Aが困っていたら、助けてあげてほしいです。これからもAと仲よくしてあげてください。～Aの母より～

3 配慮したこと

- ・障害に対する誤解や偏見につながらないように、事前打合せを2回行い、学級の様子やAさんとの関係性、授業のねらい、流れ、配慮点を確認した。
- ・Aさんの保護者の理解が得られるように、授業のねらいや内容等を説明して協力を得た。
- ・自分たちで考えた工夫を主体的に実生活で実践できるように、事前学習→当日の授業→事後学習をセットで計画するとともに、実際場面での事例（困りごと）を取り上げた。
- ・互いの表情や挙手している状況が分かるように、コの字型の座席にした。
- ・Aさんを否定的に捉えないように、苦手さを克服するために頑張っていることを紹介した。

「違い」は欠点ではなく、その人らしさであり、意味がある。互いの「違い」を認め合う学級づくりの実現が、全ての人を包みこむ共生社会の形成につながる。



とれたて直送便



「不完全だから、前に進める」

イチロー選手のアメリカ野球殿堂入りのニュースで、「1票足りないというのはすごく良かったと思います。不完全であるというのはいいなって。生きていくうえで、不完全だから進もうとできるわけだね」と語っていました。欠けたところがあるから、ある方が人は向上します。子どもへの指導も、授業づくりも、満足したらそれで終わりです。